

第2期恵庭市観光振興計画の振り返り

1. 基本理念

「花のまち 恵みの庭を育む 観交まちづくり」

○恵庭ならではの「花のまちづくり」の特徴を生かし持続するため、人づくりと観光振興を一体的に推進する。

○市民がまちの魅力を知り、楽しみ(愛し)、育て、情報発信していく。

○市民や地域と来訪者の交流を一層高め、恵庭スタイルの観光を構築するため「観交」と表現し、持続的な来訪や、満足度向上につなげる。



2. 基本方針と主な取組及び実績

方針1



<主な取組>

- おもてなし・受入サービスの向上
- 人材育成・市民意識の醸成
- 道路案内標識・案内看板の整備
- Wi-Fi 環境及びキャッシュレス化
- 外国語表記への対応
- 二次交通の充実
- 教育旅行受入体制の構築
- 広域連携及び学校との連携体制の構築

<実績>

○ふれあい交流の推進

花や庭造りに関する各種研修会や講習会・勉強会を実施し、花ガイドの育成や市民意識の醸成に一定の成果が見られた(参考: 資料 3-3 令和6年度 花と緑に関する研修会等実績)。

有償ガイドの創設や花観光以外のガイド育成という点では、仕組み作りや担い手確保に課題が残っている。

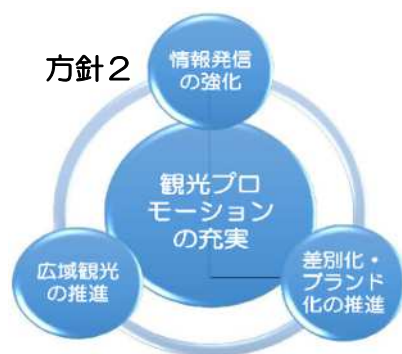
○受入環境の整備

ハード面では道路案内標識や案内看板の整備などは完了し、Wi-Fi 環境では、はなふるは完了、恵庭溪谷ではスターリンクを用いた環境整備を行うこととし、ふれらんどは施設転用等の状況に応じて検討していく。

外国語表記では、公共の観光施設やパンフレットでは英・中・韓を中心に概ね完了しているが、飲食店などでの多言語対応は進んでおらず支援策の検討が必要。

二次交通はシェアサイクルを市の事業として実施したが収支バランスが悪いことから終了し、現在は民間事業者及び恵庭観光協会による自主運営の道を模索している。また、観光タクシーは担い手不足やガイド育成の課題を解決することができず未導入。二次交通は引き続き検討が必要な課題。

台湾を中心とした教育旅行受入は、観光・経済交流としての目的は達成されたことから終了。



方針2

<主な取組>

- 各種媒体による情報発信
- ホームページの充実
- 観光案内機能の強化
- エージェント等へのプロモーションセールス
- ブランドイメージの構築
- 観光資源の集中発信
- 食の魅力向上
- 広域団体、近隣市町村との連携

<実績>

○情報発信の強化

ホームページ・パンフレットの充実の他、各種広告やパブリシティ媒体での情報発信を行い、集客に繋がった。

エージェントへのプロモーションでは、ツーリズム EXPO 等の商談会で PR を行ったが、ガーデンツアーや飲食店など、団体受入が難しい恵庭の実態から成果には繋がっていない。団体が主のエージェントではなく、個人旅行者へ直接届ける情報発信が必要となっている。

○差別化・ブランド化の推進

花の拠点(はなふる)は、多くの関係者によって、様々な角度から施策投入が日々行われていることで、誰しもうれしめる施設となり、ブランド化が図られている。

恵庭溪谷では施設の老朽化や事業者不在等により、魅力的な資源はあるものの差別化やブランド化は進んでいない。まずは、資源を生かした観光コンテンツを展開する事業者を誘致すること、事業展開に合わせた一定の施設整備の検討が必要。

食や土産物のブランド化については、開発支援や販路拡大策等を投じてきたが、恵庭の食又は土産物ならこれ！と言われるまでのブランド化は進まなかった。一方で、飲食店などは個性的な店が多くあり、情報発信による認知度向上が図れた。

○広域観光の推進

石狩振興局、さっぽろ連携中枢都市圏、オール北海道ボールパーク連携協議会、支笏洞爺国立公園連絡協議会など、多様な広域団体の連携を行い、様々な広域観光施策を実施した。



方針3

<主な取組>

- 既存観光施設の磨き上げと利活用の推進
- 新たな観光資源の発掘と創造
- 花観光の推進
- 花の拠点(はなふる)の誘客促進
- 溪谷観光の推進
- 恵庭溪谷ビジターセンター機能の整備
- グリーンツーリズムの充実
- 新たな体験型観光の推進
- 市外客誘客に向けた魅力向上

<実績>

○観光資源の魅力向上

既存観光施設の利活用として、緑のふるさと森林公園における工作体験やホーストレッキングの実施、恵庭溪谷での紅葉バスツアーの実施などを進めてきたが、限定的な効果に留まっている。また、自然資源を生かした新たな観光資源の創出には、アクティビティ事業者やガイドなどが不可欠であるが、盤尻地区には存在していない。

花観光の推進として、花のまちづくりの意識情勢やガーデナー・花ガイドの育成などを進めてきたが、担い手の高齢化により継承が課題となってきている。

○着地型観光の推進

新たな観光資源として、収穫体験を中心としたグリーンツーリズムやえにわ湖でのカヌー事業など体験型観光を推進してきたが、観光資源としての定着には至っていない。

○イベントの充実

花の拠点(はなふる)が、施設の使いやすさや立地的な優位性、広い駐車場があることなどから、官民の主催を問わず、各種イベントの会場として利用されるようになり、市外からの誘客及び施設の活性化に繋がっている。